

事例20

< 事例概要 >

迷入

- ① 70 歳代、慢性腎不全で透析中の患者。
- ② 長期の腹膜透析治療による腹膜炎のため血液透析移行、長期留置型血液浄化用カテーテルを留置予定。
- ③ BMI不明。抗血栓薬の使用は不明。
- ④ 右内頸静脈よりリアルタイム超音波ガイド下で穿刺。適宜透視を用いて位置確認を行っていた。長期留置型カテーテル挿入後、逆血を確認。使用したガイドワイヤーは先端部が折れ曲がっていた。縫合固定中に血圧低下を認めX線撮影でカテーテル先端位置の異常、気胸がないことを確認したが直後に意識レベル低下、心肺停止。穿刺から約4時間後に死亡。
- ⑤ 死因は、血液浄化用カテーテルが内頸静脈外に逸脱し、下行大動脈近傍の迷走神経への刺激・反射に伴う血圧低下による心血管イベントの続発（疑い）。死亡時画像診断（Ai）有、解剖有（カテーテルは右胸腔内に迷入していた。縦隔血腫と血性胸水約100 ml）。